

el monumento mandala 1993. diciembre. Hironori Asanuma

浅沼弘《El monument mandala 緑》1993年 アクリル・セメント・板 88.8×88.8cm シバコレクション

浅沼弘展

《会期》2021年3月6日[土] — 4月18日[日]

《入館料》一般400 [350] 円 / 高校・学生250 [200] 円 / 小学・中学生150 [100] 円 ※ [] 内は20名以上の団体料金

《休館日》月曜休館 [月曜日が祝日の場合その翌日] 《開館時間》8:30 ~ 17:00 [入館は16:30まで]

《同時開催》佐々木秀次展 SASAKI Shuji Solo Exhibition [萬鉄五郎記念美術館・八丁土蔵ギャラリー]

《主催・会場》萬鉄五郎記念美術館 〒028-0114 岩手県花巻市東和町土沢5区135番地 TEL.0198-42-4402

萬鉄五郎記念美術館

浅沼 弘 展 ASANUMA Hiroshi Solo Exhibition

1932（昭和7）年に盛岡に生まれた浅沼弘（旧姓／佐々木弘）は、戦後まもなく開校した岩手県立美術工芸学校に学び、1952（昭和27）年卒業と同時に上京、制作活動を開始します。その年の独立展初入選を皮切りに、2年後には独立美術賞を獲得、新人画家として一躍注目されることとなります。その翌年には同会会友に推挙され、天性のセンスと巧みなテクニックで、具象表現を基にした完成度の高い魅力的な作品を生みだしていくこととなります。さらに早くも専属の画廊がつくまでとなり、その才能は多方面から期待され始めます。

中央で認められ勢いに乗る浅沼でしたが、1959（昭和34）年には地元での活動に切り替え帰郷。徐々に前衛的な表現へと移行していき、盛岡の若手画家たちが結成した精鋭美術グループ「集団N39」に参加。新たな独自世界を模索しながら完成度の高い表現世界を展開していきます。

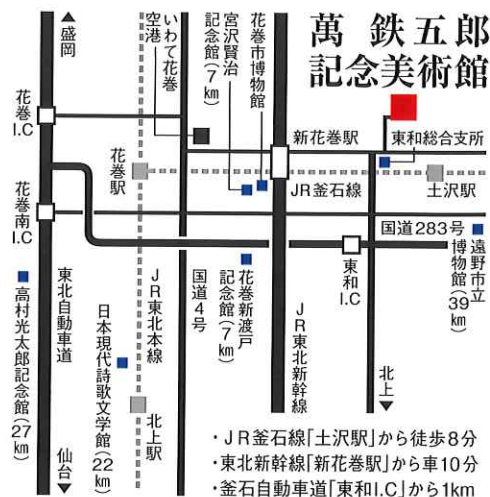
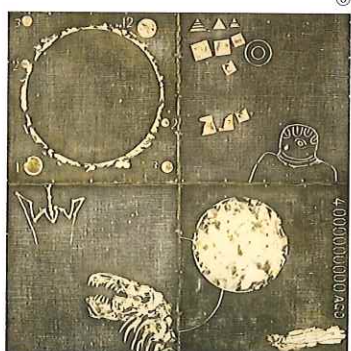
当館では、1995（平成7）年に浅沼の現況を紹介する自選展を開催しています。当時は「マンダラ」シリーズに取り組んでいた時期で、心的な世界観に裏打ちされた抽象表現を試みていました。その後、水彩画の特性を巧みに応用し、情緒性に満ちた抽象描写や裸婦像へと移行していった浅沼ですが、いずれの時代においても完成度の高い絵画表現を構築していった稀有な画家といえます。

本展は、2012（平成24）年に亡くなった浅沼の初の遺作展となり、初期から晩年までの画業の全体像を紹介するとともに、豊かな才能の持ち主であった彼の表現世界を再検証したいと思います。

なお、この展覧会は、昨年3月からの新型コロナウイルス感染防止対策のため1日だけの開催に終わった同展を再現するものです。



- ① 《静物1》 1952（昭和27）年頃 鉛筆・紙 39.5×27.5cm
- ② 《顔》 1955（昭和30）年 油彩・板 31.0×26.0cm
- ③ 《裸婦立像》1980（昭和55）年頃 油彩・紙 18.9×13.6cm
- ④ 《作品D》 1989（平成元）年 アクリル・画布 52.5×45.5cm
- ⑤ 《充填的構成より》 1990（平成2）年 アクリル・画布 22.7×15.8cm
- ⑥ 《EL Monument 赤》 1992（平成4）年 アクリル・セメント・画布 65.2×53.0cm
- ⑦ 《EL Monument Mandara 赤》 1993（平成5）年 アクリル・セメント・板 88.8×88.8cm
- ⑧ 《予兆を告げるもの-G》 1998（平成10）年頃 アクリル・画布 90.0×90.0cm
- ⑨ 《CON TRAIL》 2001（平成13）年 グワッシュ・紙 54.0×79.0cm



萬鉄五郎記念美術館